

いわて未来づくり機構

令和6年度第3回ラウンドテーブル

日時 令和7年1月17日(金)15:00~17:00
会場 サンセール盛岡 3F 鳳凰の間

次 第

- 1 開 会
- 2 講 演
「I OWN構想の実現に向けた取り組み ~ I OWNで実現する未来や社会課題の解決について~」
講師 日本電信電話株式会社 I OWNプロダクトデザインセンタ APN推進プロジェクト
プロジェクトマネージャ 竹内 規晃 氏
- 3 ディスカッション
- 4 若者・女性に「選ばれる岩手」宣言
- 5 その他
- 6 閉 会

出席者

【講師】 日本電信電話株式会社 IOWNプロダクトデザインセンタ APN推進プロジェクト
プロジェクトマネージャ 竹内 規晃 氏

【ラウンドテーブルメンバー】

氏 名	所 属 ・ 職 名
谷 村 邦 久	岩手県商工会議所連合会会長、みちのくコカ・コーラボトリング株式会社代表取締役会長
岩 山 徹	一般社団法人岩手経済同友会代表幹事、株式会社岩手銀行代表取締役頭取
米 谷 春 夫	大船渡商工会議所会頭、株式会社マイヤ代表取締役会長
小 川 智	岩手大学学長
鈴 木 厚 人	岩手県立大学学長
達 増 拓 也	岩手県知事

【企画委員】

氏 名	所 属 ・ 職 名
鈴 木 俊 昭 (委 員 長)	岩手県立大学副学長(総務)兼事務局長
菊 地 文 彦 (司 会)	株式会社岩手銀行取締役常務執行役員
菊 池 透	岩手県商工会議所連合会専務理事
喜 多 一 美	岩手大学理事(総務・戦略企画担当)・副学長
小 野 博	岩手県政策企画部長

【作業部会座長】

作業部会	氏名	所属・職名
地域人材育成作業部会	島田直明 (欠席)	岩手県立大学総合政策学部教授
少子化対策支援作業部会	齋藤晴紀	岩手県保健福祉部子ども子育て支援室次世代育成課長
イノベーション推進作業部会	小笠原徳	岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室長
かけ橋作業部会	森英介	岩手県ふるさと振興部県北・沿岸振興室沿岸振興課長
復興教育作業部会	本山敬祐	岩手大学教育学部准教授
いわて復興未来塾作業部会	北島太郎	岩手県復興防災部副部長兼復興危機管理室長
地域公共交通作業部会	宇佐美誠史 (欠席)	岩手県立大学総合政策学部准教授
分野間連携による農林水産業 振興作業部会	水野雅裕	岩手大学理事(研究・地域連携担当)・副学長

いわて未来づくり機構 令和6年度第3回ラウンドテーブル講演

講師略歴

日本電信電話株式会社 IOWNプロダクトデザインセンタ APN推進プロジェクト
プロジェクトマネージャ 竹内 規晃 氏

- 1998年 NTT入社、以降、NTT東日本で通信ネットワーク設備やシステムの開発、
地域ネットワークの設備投資・計画等の業務に従事
- 2015年7月 NTT 総務部門 人事・人材開発担当 担当部長
- 2017年7月 NTTコミュニケーションズ マネジメントサービス部 サービス企画部門 担当部長
- 2019年7月 NTT東日本 経営企画部 中期経営戦略推進室長、IOWN推進室長
- 2022年5月～ NTT IOWNプロダクトデザインセンタ APN推進プロジェクト
プロジェクトマネージャ

講演資料



IOWN構想の実現に向けた取り組み ～ IOWN で実現する未来や社会課題の解決について ～

2025年1月17日

IOWNプロダクトデザインセンタ 竹内規晃

情報流通量、電力の増大

◆通信トラヒックの増加に伴い、消費電力は増大

インターネット内の情報流通量の推計



IT機器消費電力量の推計

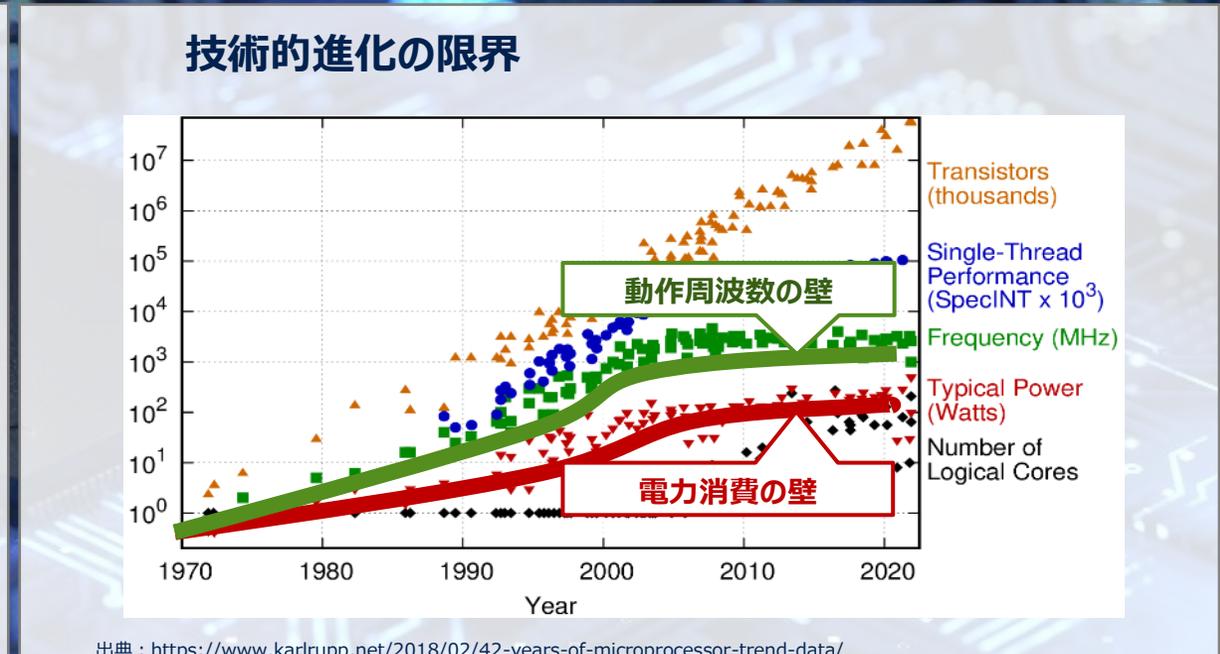
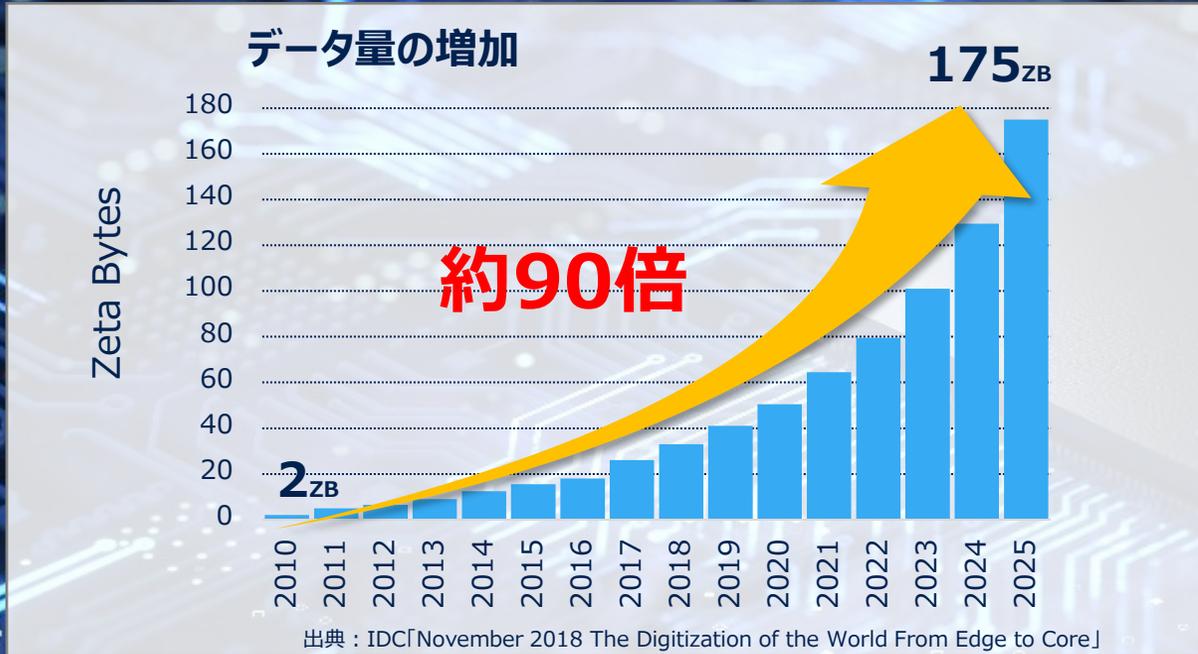


増加するトラヒックへの対応

消費電力の抑制、削減

コンピューティング基盤の限界

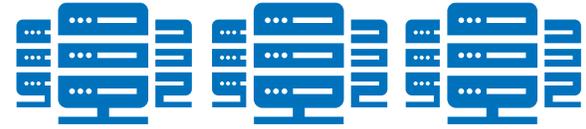
◆通信データ量の増加する一方、ムーアの法則は限界



情報処理能力の拡大

顕在化しつつある問題

サーバインフラの肥大化



データ量、処理量の爆発



レイテンシ問題



1秒のズレが大きな影響



リライアビリティ問題



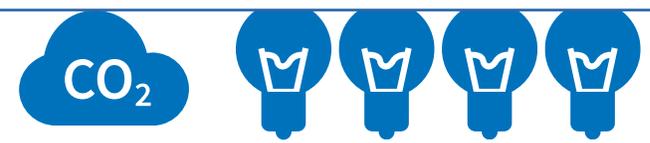
ミッションクリティカルな利用拡大



ROI/グリーンROI 問題



電力消費量の爆発的増加



IOWNとは

- 光電融合技術と光通信技術の開発により実現する次世代の通信・コンピューティング融合インフラ
- 「大容量性」、「低遅延性」、「低揺らぎ」、「低電力消費性」を既存インフラに対する大きな優位性とする

顕在化しつつある問題

サーバインフラの肥大化

データ量、処理量の爆発

レイテンシ問題

1秒のズレが大きな影響

リアイビリティ問題

ミッションクリティカルな利用拡大

ROI/グリーンROI 問題

電力消費量の爆発的増加

IOWN = 光電融合技術と光通信技術の開発による「次世代の通信・コンピューティング融合インフラ」



めざす世界



IOWNで解決 : Electronics to Photonics

データ量の増加



消費電力の増加



低遅延化



IOWN

Innovative **O**ptical and **W**ireless **N**etwork

目標性能 (2030年度以降)

低消費電力

電力効率^{※1}

100倍

大容量高品質

伝送容量^{※2}

125倍

低遅延

エンドエンド遅延^{※3}

1/200

※1 フォトニクス技術適用部分の電力効率の目標値 ※2 光ファイバー1本あたりの通信容量の目標値
 ※3 同一県内で圧縮処理が不要となる映像トラフィックでの遅延の目標値

低消費電力

電力効率 **100倍**※1

伝送媒体

光ファイバケーブル



伝送装置

光(波長)スルー



情報処理基盤

光電融合素子

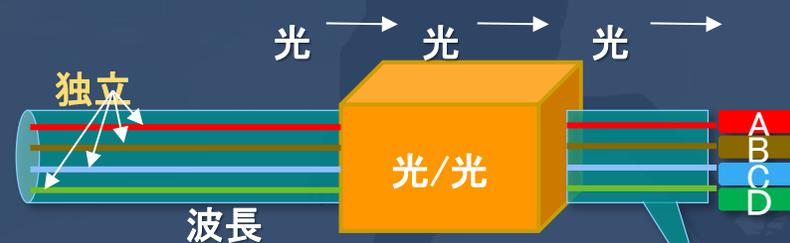


※1 フォトニクス技術適用部分の電力効率の目標値

大容量・高品質

伝送容量 **125倍**※2

・波長(光信号)



1000 [Tbps/ファイバ]

※2 光ファイバー1本あたりの通信容量の目標値

低遅延

エンドエンド遅延
1/200※3

- ・波長単位で伝送
- ・待ち合わせ処理不要
- ・データの圧縮不要

波長A

大容量動画(非圧縮)

処理遅延なし

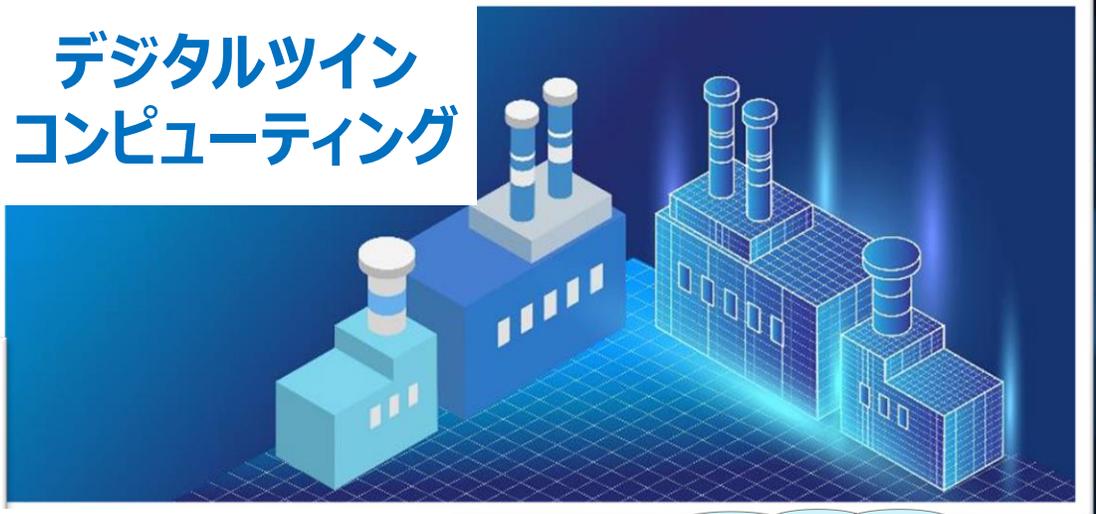
波長B

音声

※3 同一県内で圧縮処理が不要となる映像トラフィックでの遅延の目標値

IOWN構想のイメージ

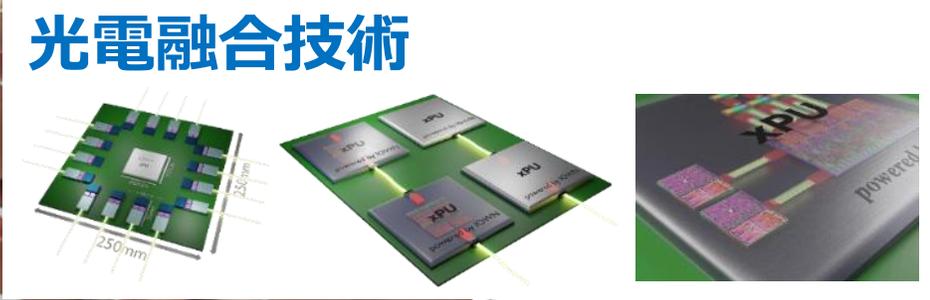
デジタルツイン コンピューティング



コグニティブ ファウンデーション



光電融合技術



エッジ ワークサービス

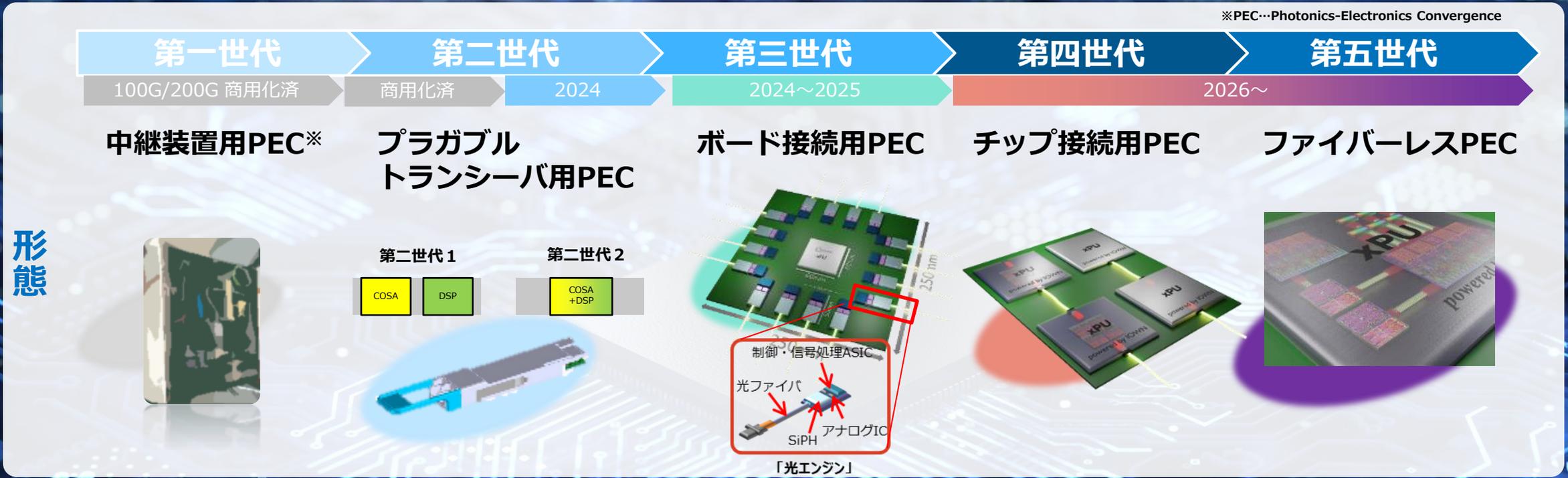
事業者B
事業者C

オールフォトニクス ネットワーク



光電融合技術の世代と適用領域

※PEC...Photronics-Electronics Convergence



デジタルツインコンピューティング



- ◆ 個々の要素が有機的につながる社会全体をデジタル化(仮想社会)
- ◆ 社会の変化を計算し、高精度に未来を予測

デジタルツインコンピューティングの応用領域

《スケール&粒度》



《アプリケーション領域》

AR/VR/XR

An image showing a person interacting with a digital avatar in a virtual environment, representing AR/VR/XR applications.

時間と空間を超えた人間の知性の活用

An image showing a network of people connected by lines, representing the application of human intelligence across time and space.

人流・交通の最適化

An image showing a busy street scene with a car and a person, representing traffic optimization applications.

将来の街のデザイン

An image showing a hand interacting with a digital city map, representing future city design applications.

意思決定

An image showing a person interacting with a digital avatar, representing decision-making applications.

医療/メディカルケア

An image showing a person in a medical setting interacting with a digital globe, representing medical care applications.

都市のエネルギー予測

An image showing a city map with energy flow indicators, representing urban energy prediction applications.

地球のデジタルレプリケーション

An image showing a hand holding a digital globe, representing Earth digital replication applications.

コグニティブファウンデーション

インテリ
ジエント



マネジメント



オーケスト
レーション



◆ ICTリソースの一元管理、リソースの最適割当、故障時の自動対応等

IOWN総合イノベーションセンタ (IIC) 設立

- 2021.7にIOWN構想の具現化につながるプロダクト・サービスの研究開発組織として発足
分野横断で一体的に開発を進めることでタイムリーにプロダクトアウト・サービス提供へ

IOWN総合イノベーションセンタ(IIC)【S】

IOWNプロダクトデザインセンタ (IDC)【S】

ネットワークイノベーションセンタ(NIC)【M T Y】

ソフトウェアイノベーションセンタ(SIC)【M S TM】

デバイスイノベーションセンタ(DIC)【A Y】

サービスイノベーション総合研究所(SV総研)【Y】

人間情報研究所(人間研)【Y TM】

社会情報研究所(社会研)【M Y】

コンピュータ&データサイエンス研究所(CD研)【Y M TM】

情報ネットワーク総合研究所(NW総研)【M】

ネットワークサービスシステム研究所(NS研)【M】

アクセスサービスシステム研究所(AS研)【T Y M】

宇宙環境エネルギー研究所(SE研)【M】

先端技術総合研究所(先端総研)【A】

未来ねっと研究所(未来研)【Y】

先端集積デバイス研究所(先デ研)【A】

コミュニケーション科学基礎研究所(CS研)【K A】

物性科学基礎研究所(物性研)【A】

知的財産センタ(知財C)【M】

NTT Research, inc.【U】

量子計算科学研究所(PHI)【U】

暗号情報理論研究所(CIS)【U】

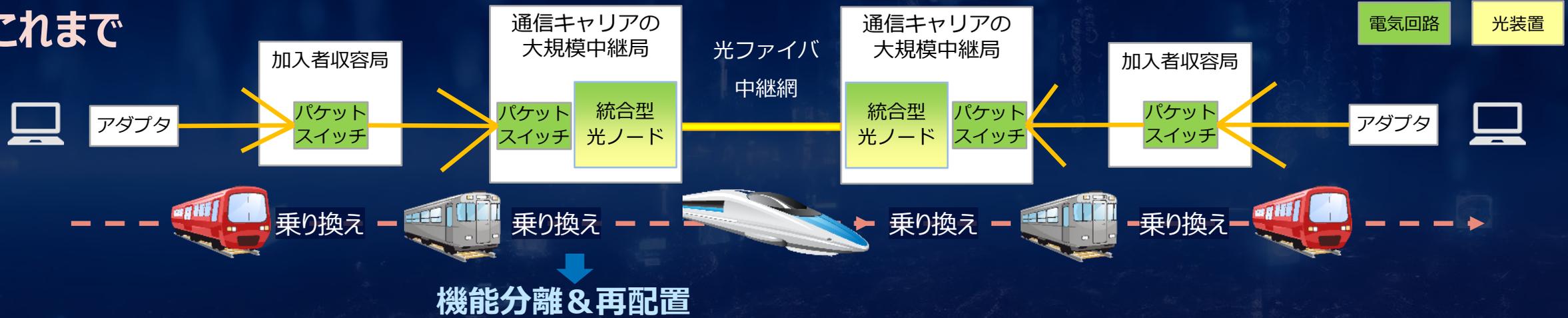
生体情報処理研究所(MEI)【U】



オールフォトリクスネットワーク (APN)の取り組みについて

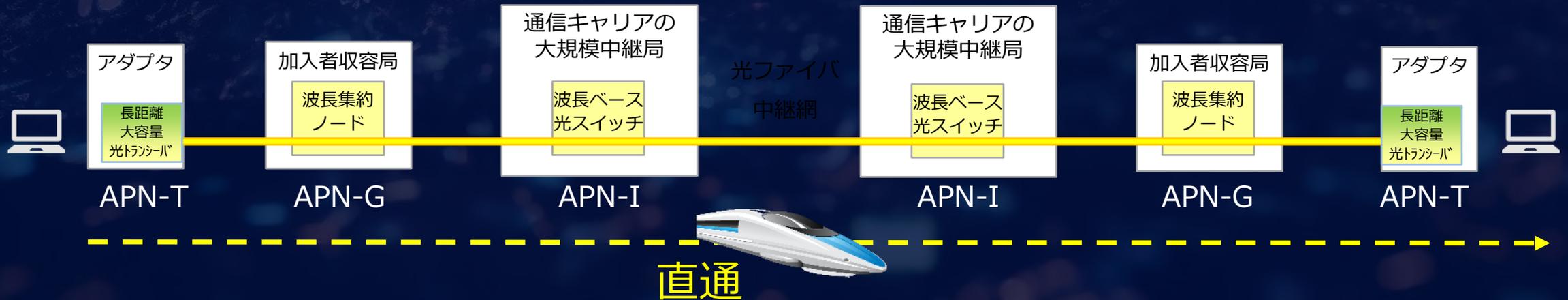
オールフォトリクスネットワーク (APN)

これまで



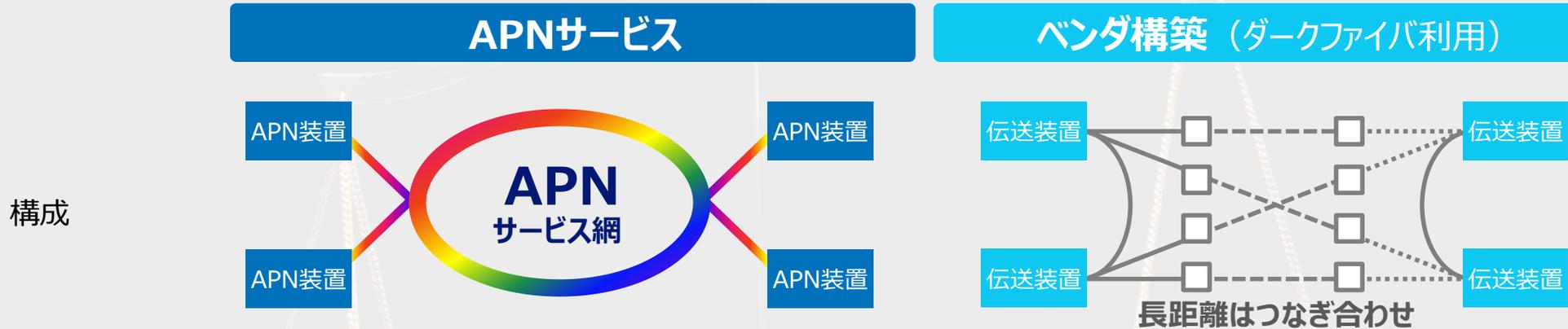
オールフォトリクスネットワーク (APN)

「光の直行便」で拠点間を大容量（数十～数百Gbs）、低遅延（0.5msec/100km）に接続



IOWN APN vs これまでの回線(ダークファイバー)

APNサービス優位性(自前・ベンダ構築比)



構成	APNサービス	ベンダ構築 (ダークファイバ利用)
開通期間	短	長
接続先の変更自由度	高	低
管理コスト (波長・パス管理)	低	高
長距離伝送 (伝送処理遅延)	容易	困難 (中継装置無しでは80km程度が限界)
信頼性・冗長性	高 (キャリアが保守監視、故障時無瞬断切り替え)	低 (自前で保守監視・バックアップ必要)
経済性	高 (利用ユーザで装置をシェア)	低 (個社で装置を負担)

エンターテイメント系

2023.3 APNサービス【IOWNサービス第一弾】

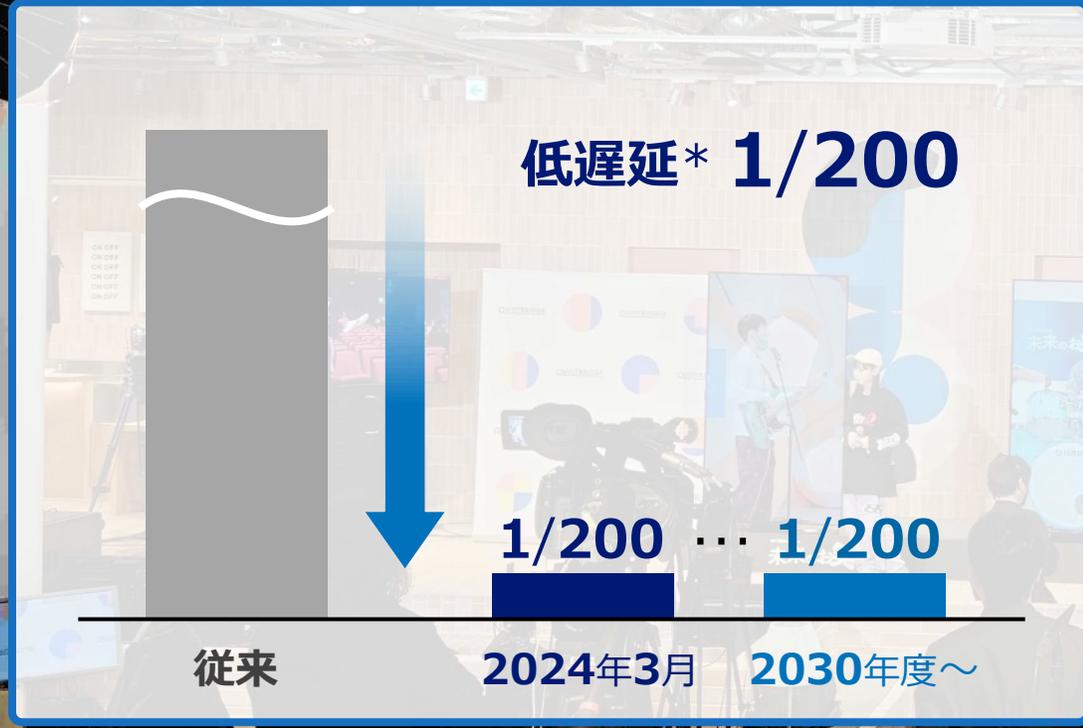
3月16日にIOWN1.0のサービスとして、APNサービスを提供開始。100GbpsのOTU4インターフェースを用いた同一県内のエンドトゥエンドの光パスを提供。



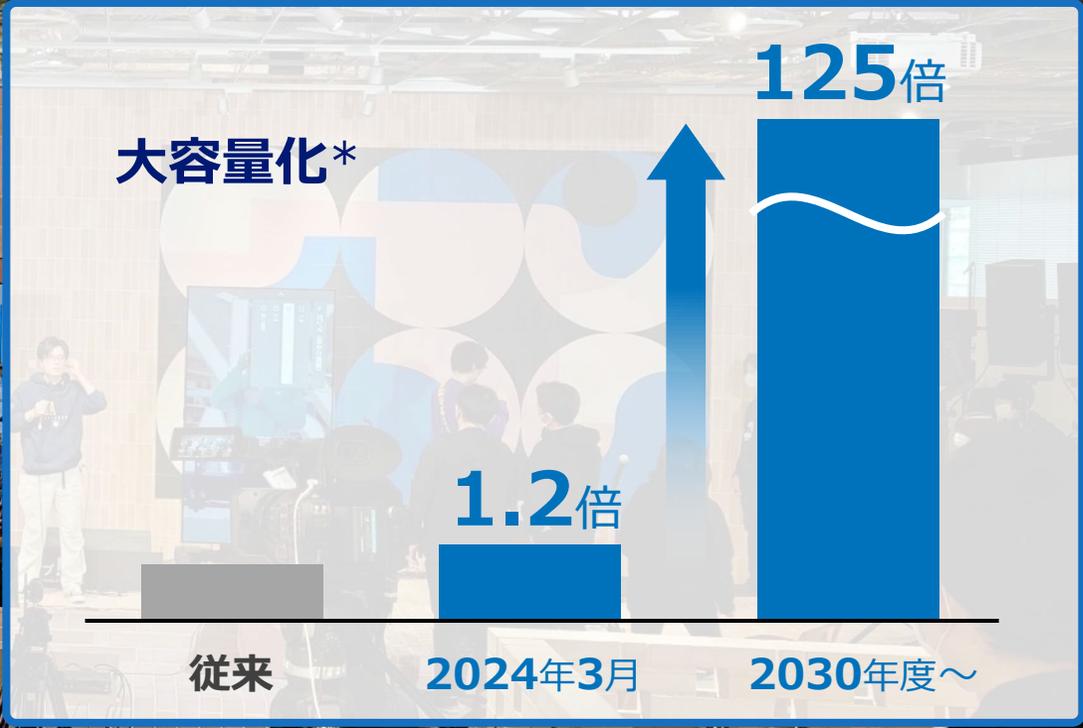
IOWN1.0サービスの特徴

遅延の大幅な改善

- 1. 既存サービスに比べ、遅延が1/200
- 2. 遅延の揺らぎ無し
- 3. 遅延の可視化と調整が可能



*同一県内で圧縮処理が不要となる映像トラフィックでの遅延の目標値



*光ファイバー1本あたりの通信容量

実証例：リアルタイム遠隔合奏「未来の音楽会」

- 演奏者が同じ場所に集まることなくAPNを介したリアルタイムの遠隔セッションを実現

未来の音楽会I
2022.3.24

未来の音楽会II
2023.2.10

数100ミリ秒程度*



映像処理

低遅延映像処理技術 を適用

伝送される映像を入力された順に画面配置を制御しながら、分割表示することを実現
⇒ 10ミリ秒程度以下へ処理遅延を低減

IOWN APN
実証NW
約15km

IOWN APN
実証NW
約500km

遅延

コーデック/
ネットワーク

低遅延伝送技術 を適用

非IP方式のレイヤ1の高速な通信パスをエンド-エンドに設定することで物理的極限に迫る低遅延化を実現
⇒ ルータ、レイヤ2スイッチによる遅延を削減
⇒ 非圧縮映像によるコーデック遅延を削減



カメラ/
モニタ

低遅延な市中製品を選定

20ミリ秒程度以下*

及び我孫子、横須賀に接続

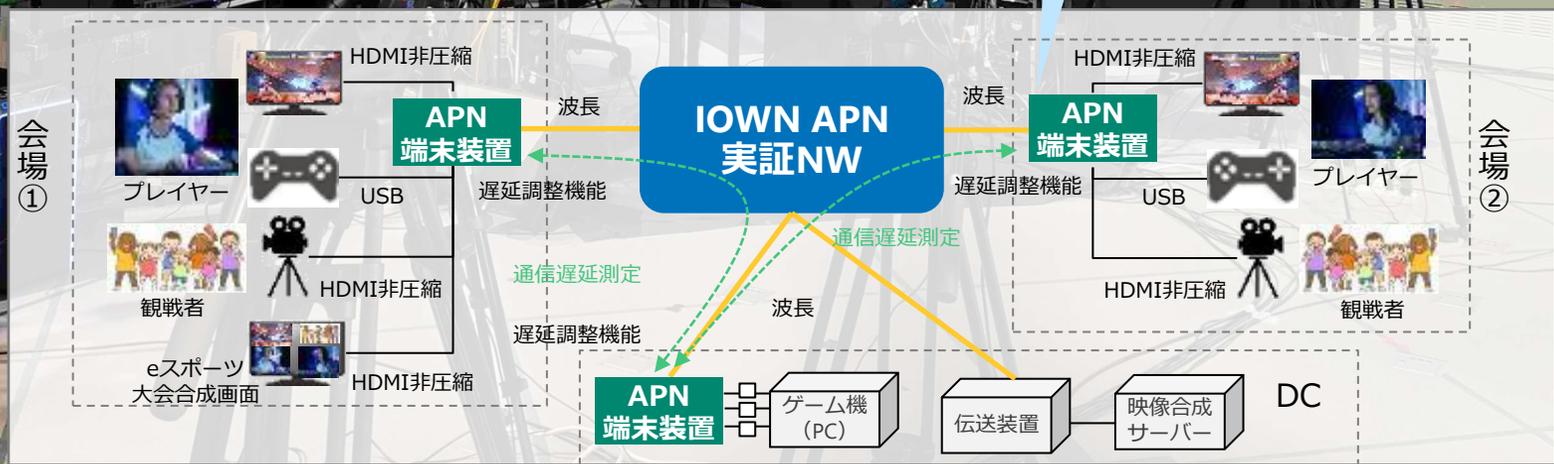
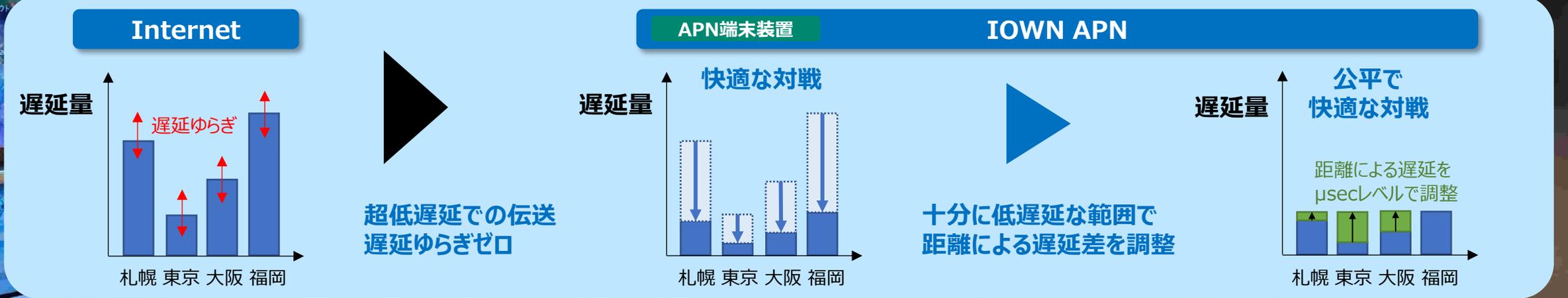
従来のWEB会議など

今回の実験システム

*条件に依存,伝送以外を含む システム全体としての遅延

eスポーツ大会へのAPN適用例

- 複数会場分散開催のeスポーツ大会でも、単一会場と遜色ないゲーミングUXを実現
- APN端末装置の遅延を測定・調整する機能により、遠隔の複数会場間にあっても公平な対戦が可能
- ディスプレイ、コントローラを直接接続し、PCやコンソール端末なしで、ハイエンドゲームを低遅延でプレイ可能



広く産業分野への適用へ

遠隔手術へのAPN適用

1 高速・広帯域の操作性

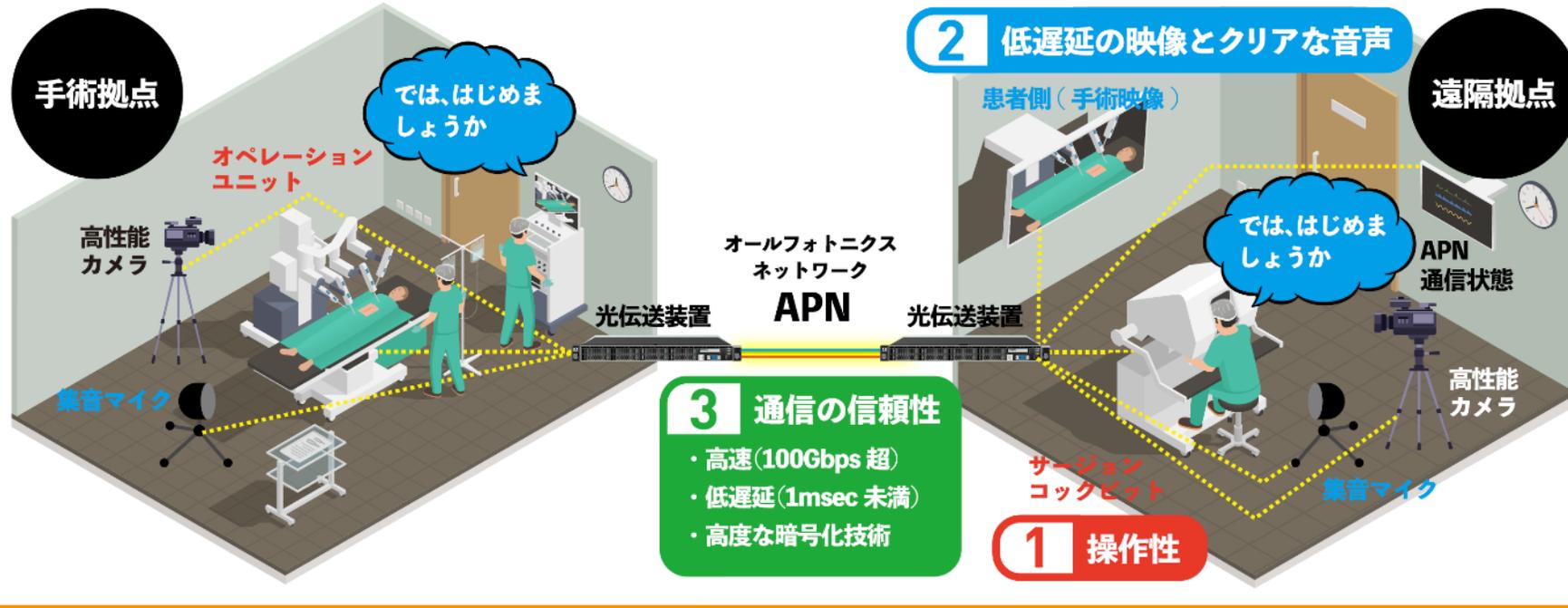
IOWN APNで低遅延な通信環境を実現。遠隔地間でも医師の操作とロボットの動きにズレがなく、円滑な支援が可能に

2 超低遅延の映像と音声

遠隔拠点からの支援・指導に欠かせないクリアな映像と音声によるコミュニケーションで、距離を感じさせない臨場感を実現

3 通信の信頼性

拠点間を光バスで直結し、支援・指導中の通信遮断を防ぐとともに、通信データに含まれる個人情報には暗号化技術で保護



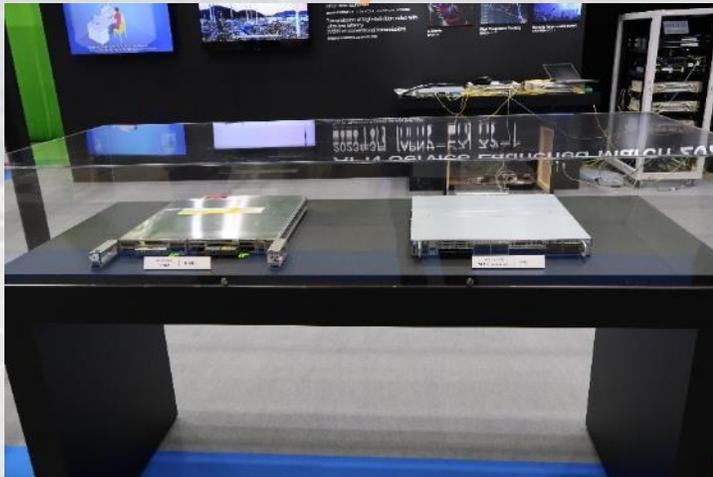
高品質の操作性、映像、音声で、離れた場所であっても「あたかも同じ室内にいる」環境構築が可能

G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合「デジタル技術展」(2023.5)

展示ブース



手術拠点



APN機器の静態展示

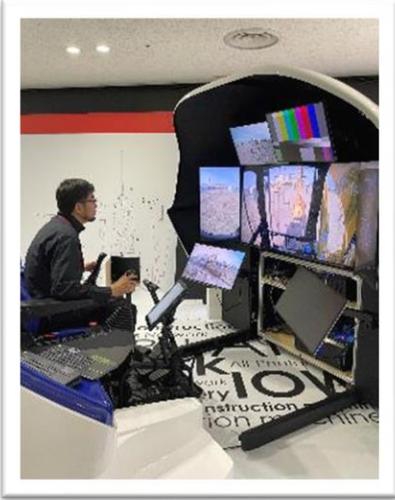
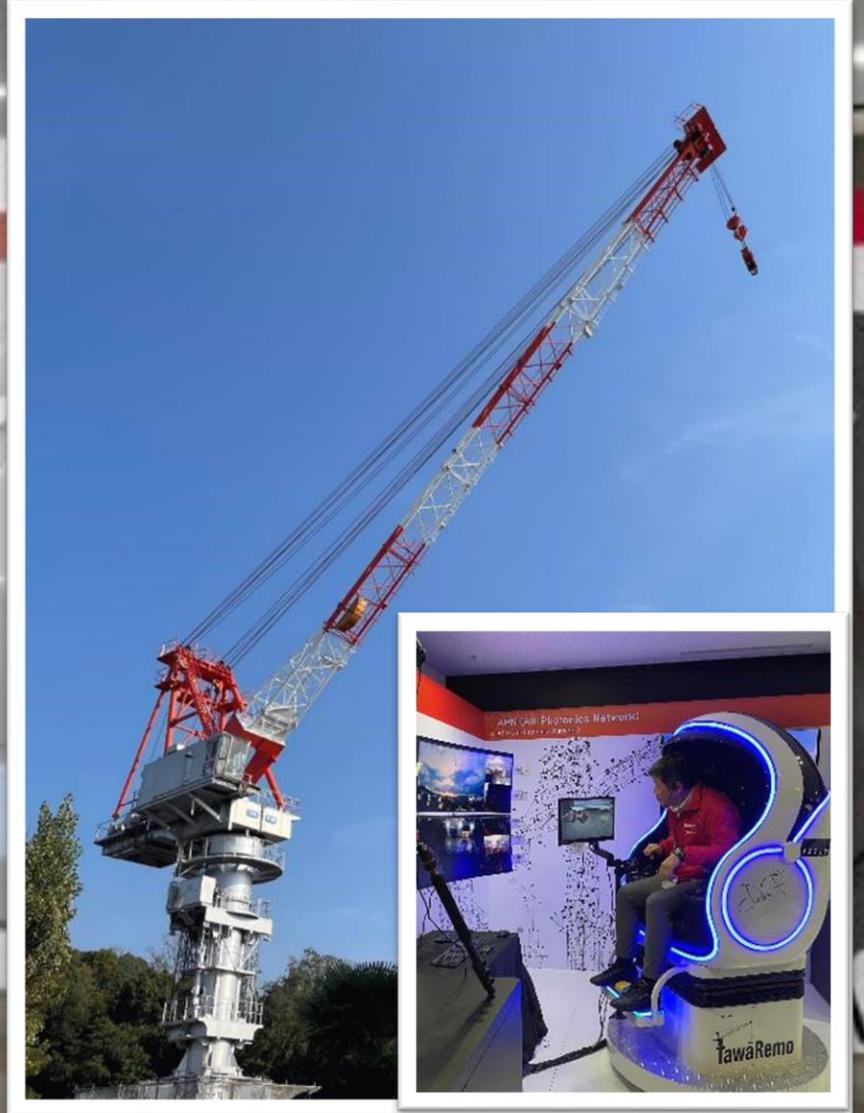
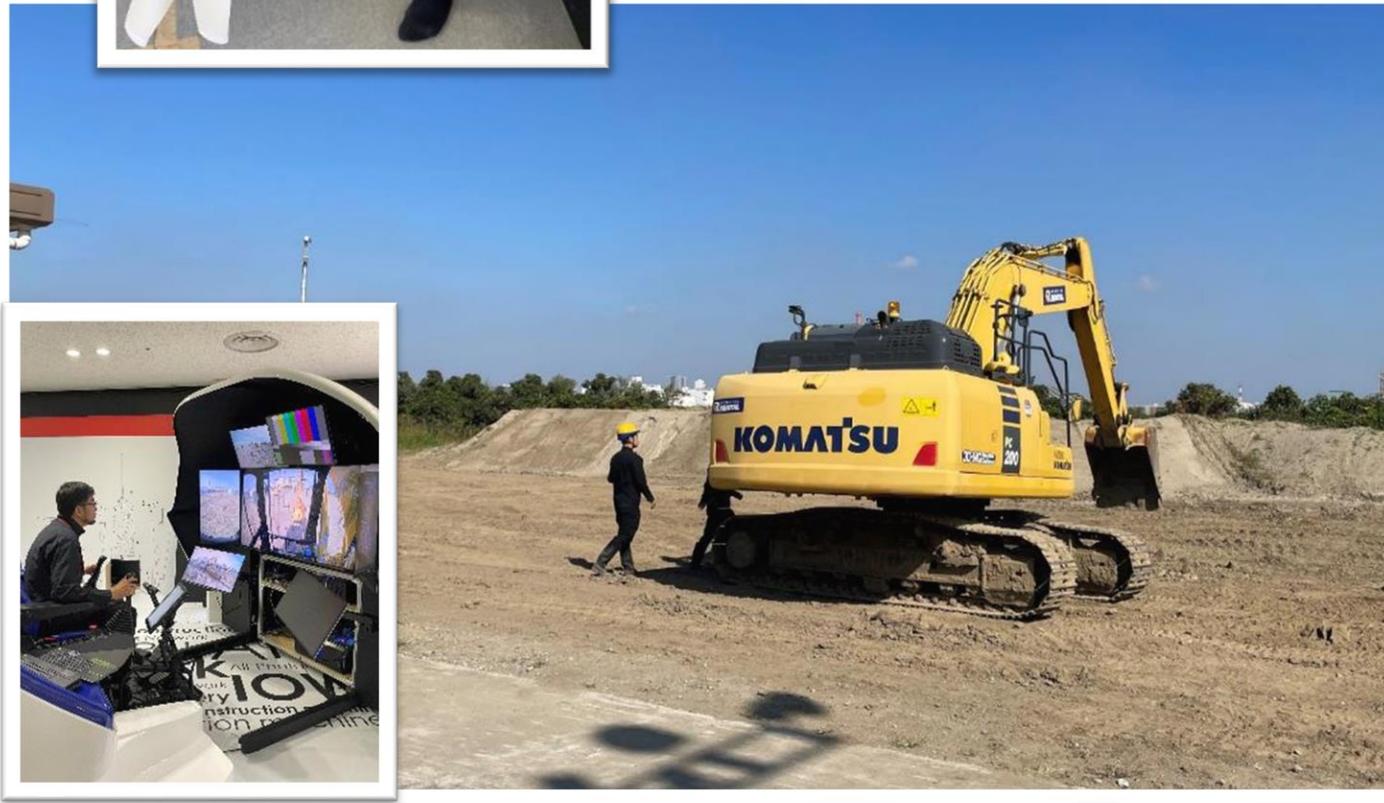


APN機器、ファイバードラムの展示



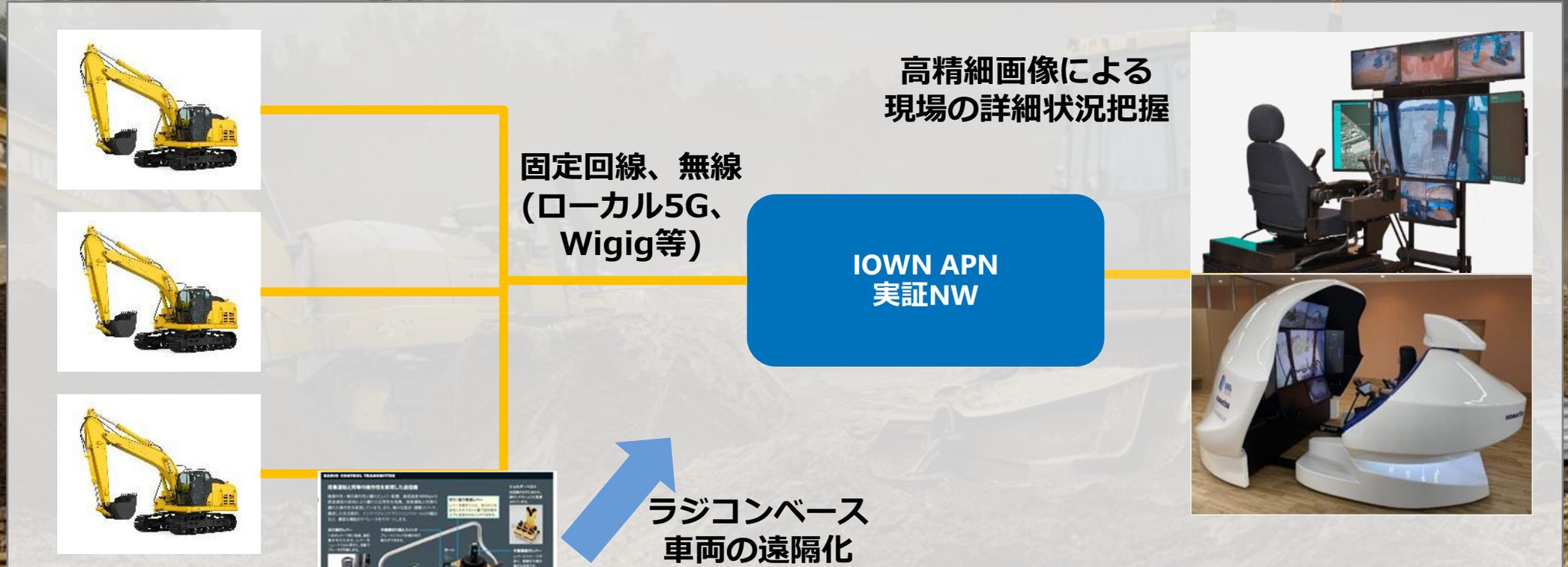
遠隔拠点

NTT R&D Forum (2023.11.13-17) における実証



遠隔建機操作

- 「遠隔建機操作」と「遠隔拠点間コミュニケーション」の双方の通信に対して、高速・低遅延かつ遅延揺らぎのないIOWN APNの価値を提供可能



• <https://jizaie.co.jp/>

• https://www.kobelco-kenki.co.jp/dx/kdive.html?device=c&loc_interest_ms=&loc_physical_ms=1009242&matchtype=b&network=g&targetid=kwd-1252101114604&utm_campaign=20051702302&utm_content=656664402625&utm_lf=29271_kwd-1252101114604_ppc_google_%E6%8C%87%E5%90%8D&utm_medium=ppc_%E6%8C%87%E5%90%8D&utm_source=google&utm_term=k-dive&gclid=EAlaIqobChMluZvRp6_G_wlVRCdgCh36ig5mEAYASAAEgIEKfD_BwE

• <https://www.earthbrain.com/>

重機の遠隔操作：ダム堆砂除去

ダムの堆砂は定期的に
除去作業が必要



現場への
移動



現場作業



現場からの
移動

労働時間上限規制に向けた対応が急務

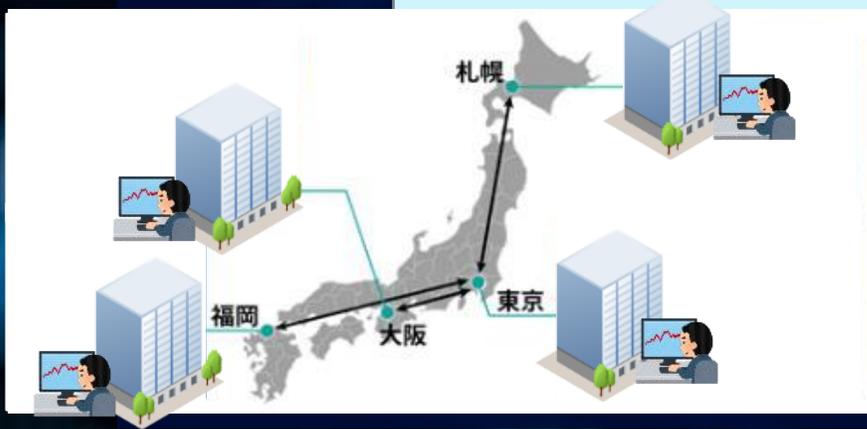
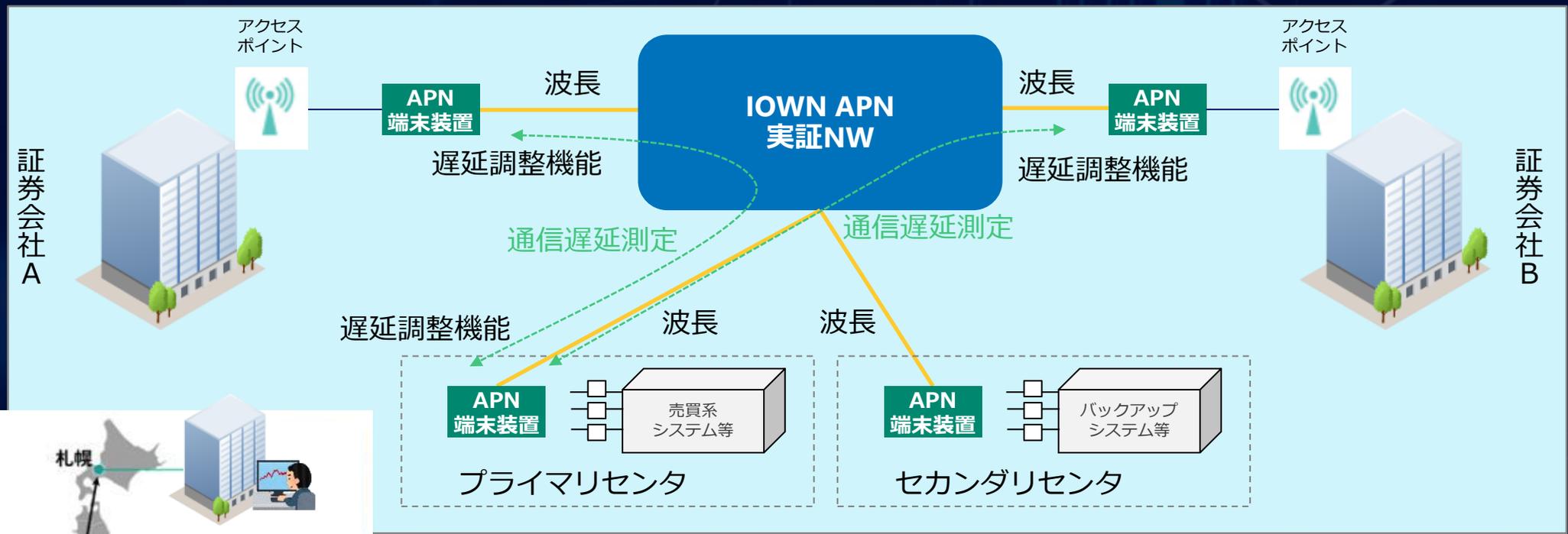
碎石、港湾、製鉄など



危険が伴う作業等に対して、遠隔操作により安心安全な作業環境へ

金融システムへのAPN適用

- 取引を行う地域に関わらず遅延やゆらぎが極小なネットワークを提供が可能となり、多地点の遅延調整機能も具備することから、取引の公平性担保が可能。



遠隔保守 (Internet Governance Forum (IGF) in Kyoto 2023.10)

展示ブース



デジタルツインによる遠隔保守



APN機器の静態展示



APN機器、ファイバードラムの展示



遠隔保守ロボット

リモートプロダクション

- ・ 現地カメラ入出力と音声を同期を保ち低遅延伝送により遠隔センタ側で制作
- ・ 制作要員の効率的な配置および高度なセンタ側制作機材の有効活用が可能



将来像 (スタジオ仮想化)



- ・ 機器の集約とリモートアクセスによるスタジオ仮想化
 - ・ 放送局から中継現場の機器へのアクセス・制御によるリモート制作
 - ・ 小規模放送局から大規模局のCGなど高度な機材へのアクセス
- ⇒番組制作スタジオの柔軟・効率的な運用へ

日台間でのクロスコミュニケーション



在京放送局と連携した生放送スタジオ映像を用いた映像制作実証



データセンターの適用について

【大阪（彩都、茨木）】
ハイパースケーラが集まる、大規模
コンピューティング集積エリア

【大阪（堂島等）】
堂島やその周辺のNW-HUB集積エリア
※東京に次ぎ、第二のインターネットHUB

【東京（大手町近郊）】
大手町のNW-HUB集積エリア
※インターネット接続の最大の
HUB拠点

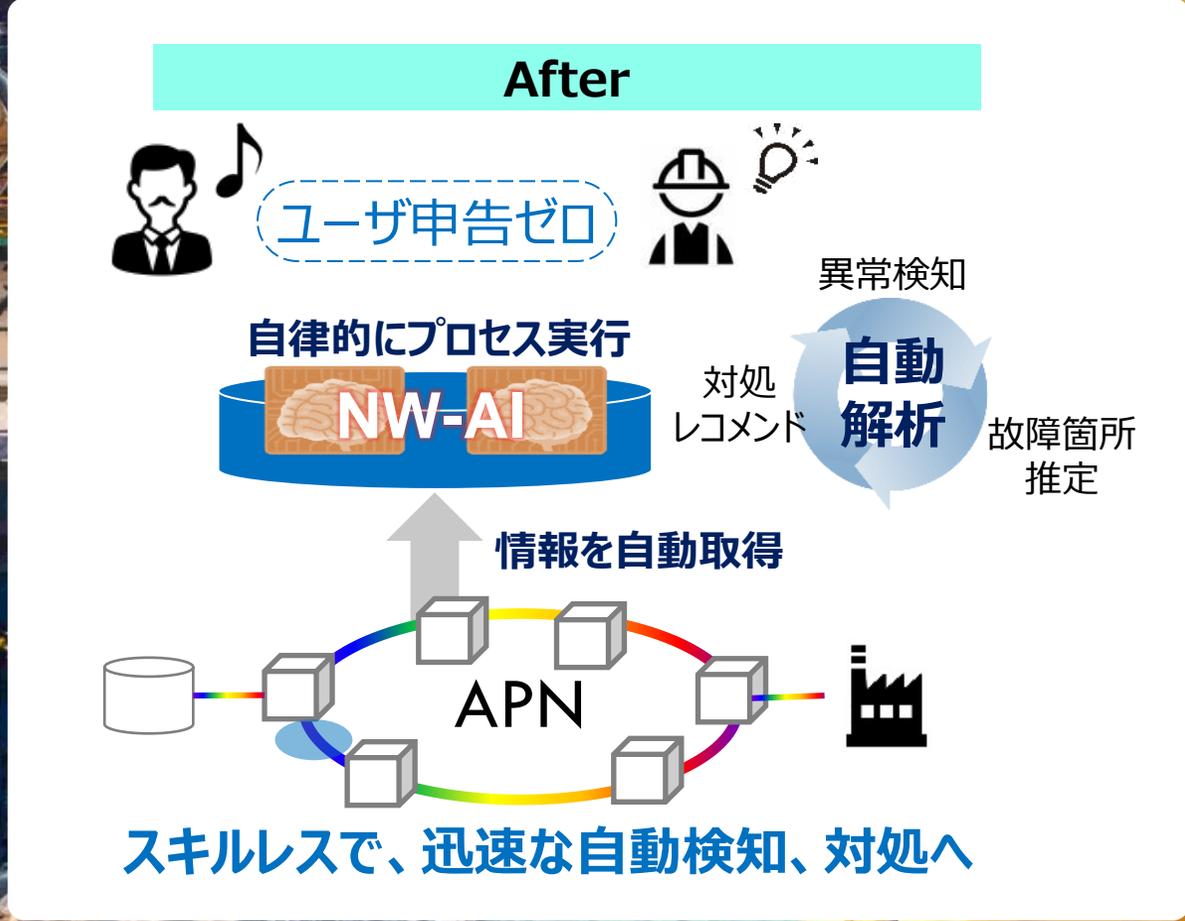
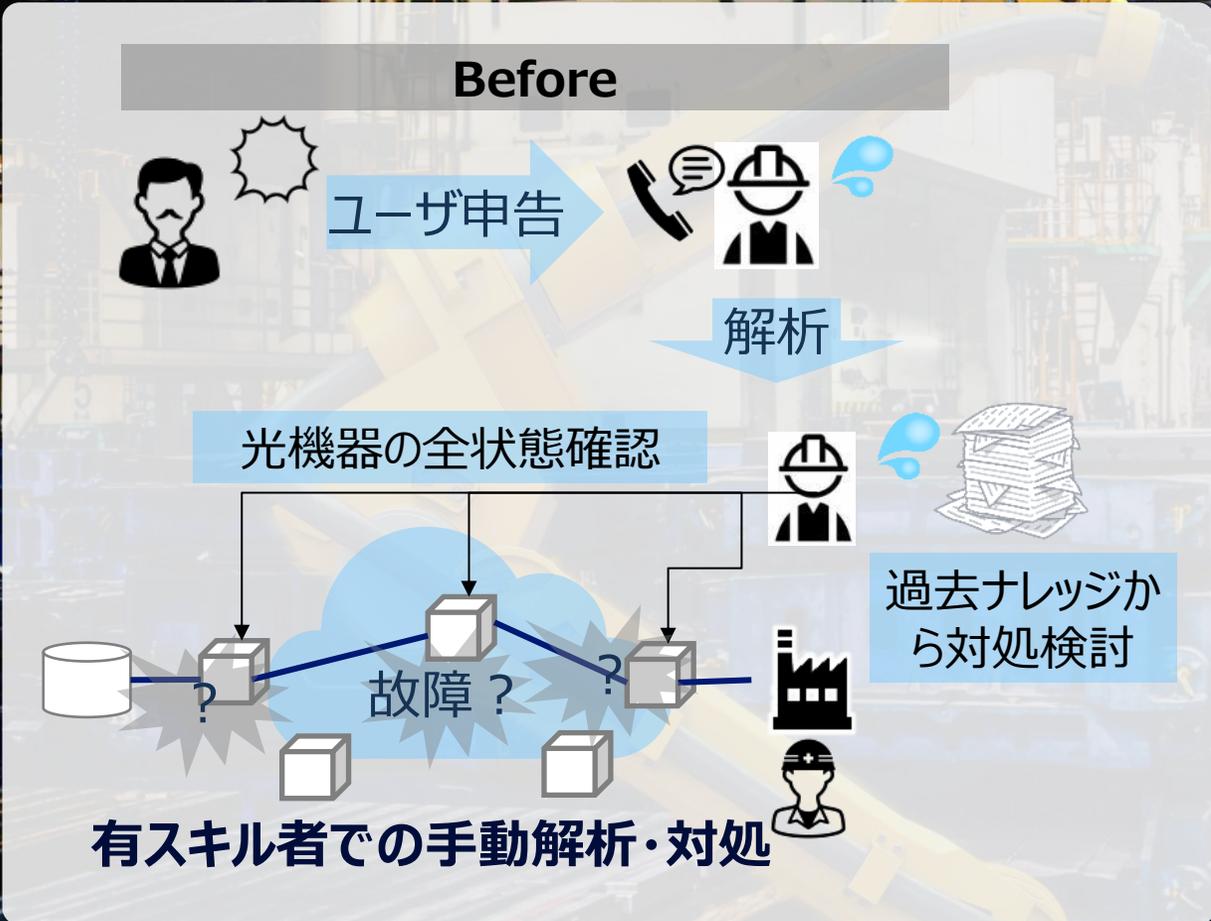
【千葉（印西、白井）】
ハイパースケーラが集まる、大規模
コンピューティング集積エリア



- 【判例】
- 大規模コンピューティング用途のDC
 - NW-HUB用途のDC
 - 自社サービス、ホスティング用途のDC

ファクトリーへの適用 (NW-AI)

- ・ 異常の検知、故障箇所の推定等の保全プロセスを自動化し、復旧時間を短縮、ビジネス損失の極小化が可能に



今後のAPNの進化

グローバルでのAPN接続 2024.8.29台湾-日本間を接続

- ・台湾-日本間3000kmの長距離通信で、大容量(100Gbps)、高い低遅延性能(伝送装置間で17ms、カメラ-ディスプレイ間で80ms)を実現
- ・データバックアップやリモートプロダクション、リアルタイムコミュニケーション等への活用へ

■今回利用した海底ケーブル



■接続概要



■開通式模様、および台湾-武蔵野間での測定値



回線速度	距離	遅延 (片道)	遅延ゆらぎ (平均)
100Gbps	2,893km	16.92msec	< 1ns

表1. 遅延・ジッタの測定結果

APNによる海外でのデータセンタ間接続



United Kingdom

遅延

0.893 msec

遅延ゆらぎ

0.035 μ s



India

遅延

計測中

遅延ゆらぎ

計測中



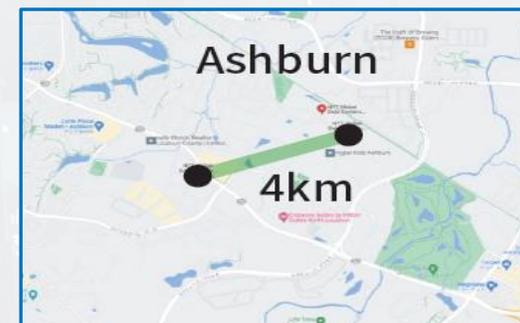
United States

遅延

0.062 msec

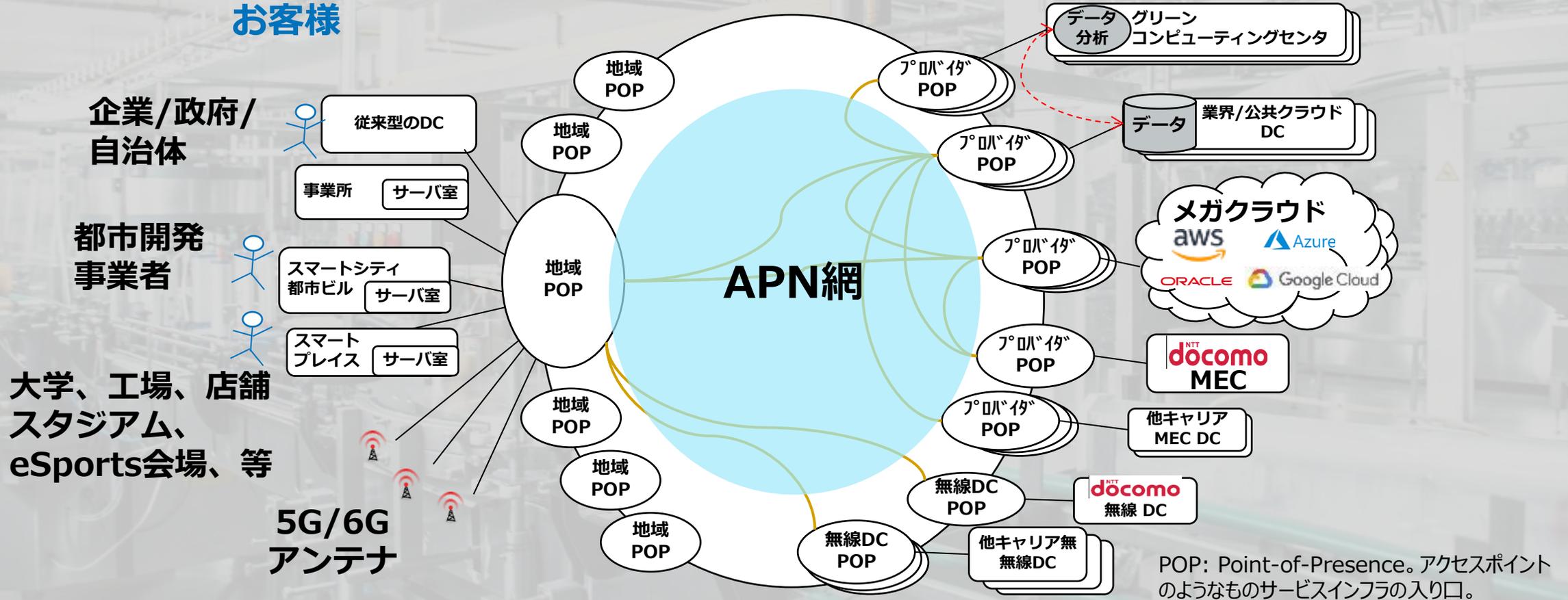
遅延ゆらぎ

0.045 μ s



今後のサービス展開イメージ

お客様

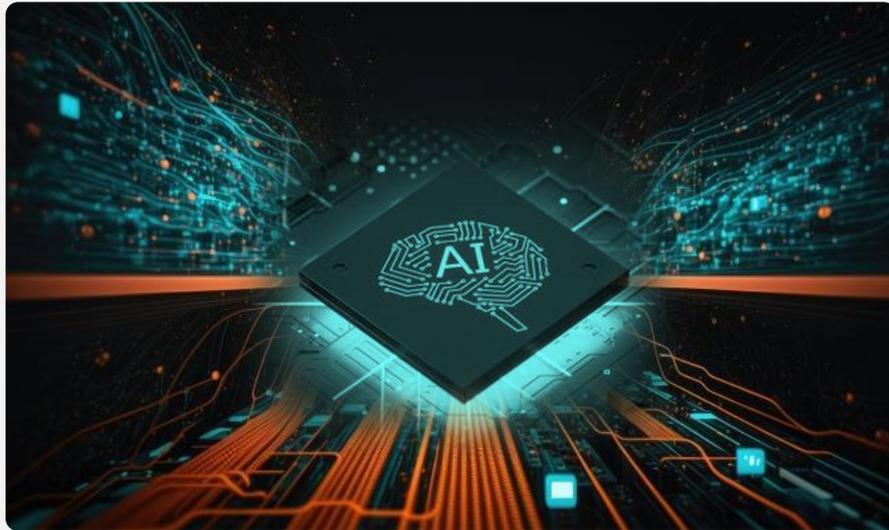


POP: Point-of-Presence。アクセスポイントのようなものサービスインフラの入り口。

IOWNと生成AI

AI普及による電力消費は莫大

GPT-3 (175B) 規模の大規模言語モデルの 1回あたりの学習に必要な電力



約 **1,300MWh**

原発一基分
1時間分の発電量



1,000MWh



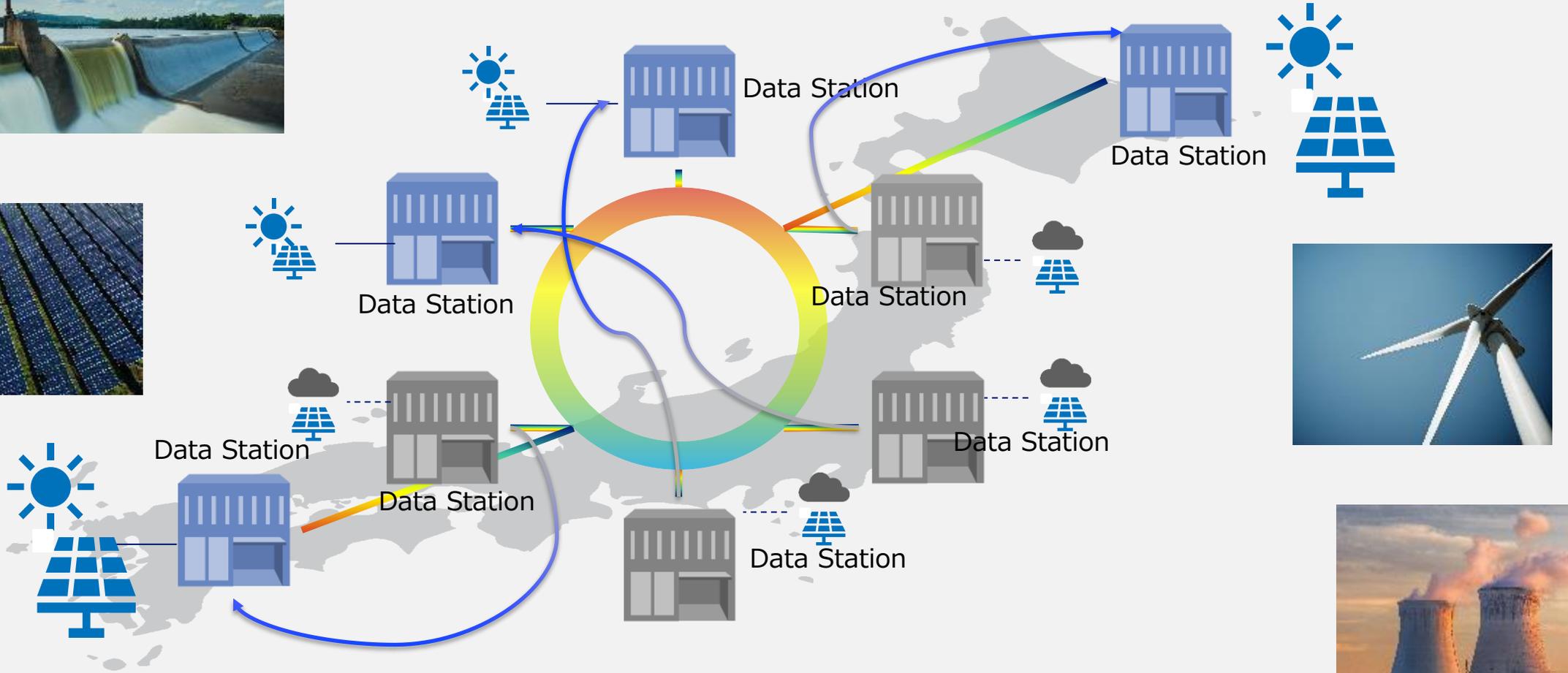
出典: Carbon Emissions and Large Neural Network Training <https://arxiv.org/pdf/2104.10350.pdf>

分散型データセンタ促進 (APN×LLM)

- 約100km離れたデータセンタ間をAPNで接続することで分散型データセンタ環境を構築
- 学習データを手元に置いたまま、遠隔のデータセンターのGPUを利用してLLMの学習を実施
- **ローカル環境と遜色のない安全かつ低遅延のLLM学習環境を実現**



再生可能エネルギーの地産地消



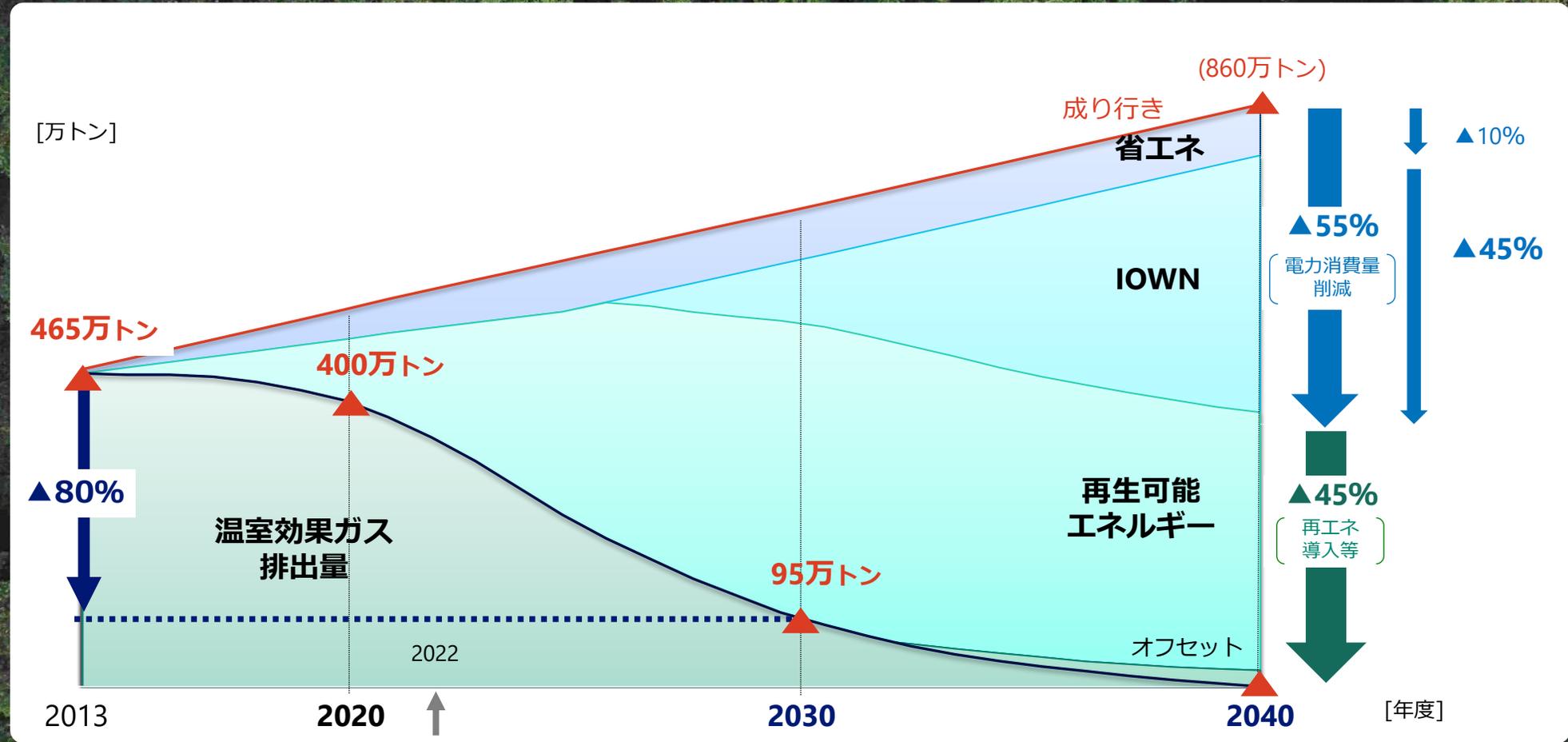
電力の安定供給場所の計算機リソースを動的に選択



カーボンニュートラル実現に向けて

- ・ IOWN導入により電力消費量を削減し、温室効果ガスを45%削減※1

温室効果ガス排出量



2022
↑
インターナルカーボン
プライシング制度の導入

モバイル、データセンター
カーボンニュートラル

NTTグループ
カーボンニュートラル

※1 IOWN導入による電力消費量の削減見通し(対成り行き)
総電力量に対するIOWN(光電融合技術等)の導入率

→ 2030年度：▲20億kWh(▲15%)、2040年度：▲70億kWh(▲45%)
→ 2030年度：15%、2040年度：45%

IOWN Global Forumメンバー加入状況



Sponsor Members (39)

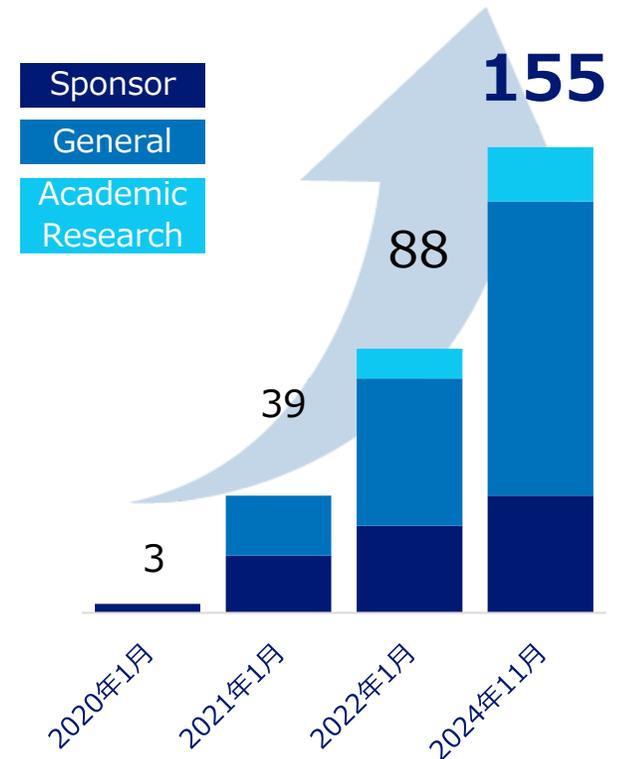
Advanced Semiconductor Engineering	Intel	Red Hat	KDDI株式会社	株式会社 博報堂
Chunghwa Telecom	Microsoft	Samsung Electronics	京セラ株式会社	富士通株式会社
Ciena	NICT	SK hynix	住友電気工業株式会社	古河電気工業株式会社
Cisco Systems	Nokia	SK Telecom	ソニーグループ株式会社	株式会社みずほ銀行
Dell Technologies	Oracle Japan	VMware	デロイト トーマツ	三菱電機株式会社
Delta Electronics	ORANGE	アクセンチュア株式会社	トヨタ自動車株式会社	株式会社三菱UFJ銀行
Ericsson	Pegatron	アソシエイト・システムズ株式会社	日本電気株式会社	楽天モバイル株式会社
Google	PwC Japan	キオクシア株式会社	日本電信電話株式会社	

アジア・米州・欧州を含む
155組織・団体が参画

※2024年11月時点

General Members (98)

Accton Technology	アイオーコア株式会社	新光電気工業株式会社	ネットワンシステムズ株式会社
Advanced Micro Devices	I-PEX株式会社	スカパーJSAT株式会社	株式会社白山
British Telecommunications	味の素株式会社	住友化学株式会社	パナソニック ホールディングス株式会社
DriveNets	株式会社 梓総合研究所	住友商事九州株式会社	株式会社ピアズ
GeNopsys Technologies	株式会社アドバンテスト	セイコーエプソン株式会社	東日本旅客鉄道株式会社
Infinera	APRESIA Systems 株式会社	双日テックイノベーション株式会社	株式会社日立製作所
IP Infusion	株式会社 安藤・間	S O M P Oホールディングス株式会社	株式会社フジクラ
Juniper Networks	アンリツ株式会社	大成建設株式会社	株式会社Preferred Networks
Keysight Technologies	イーソリューションズ株式会社	大日本印刷株式会社	本田技研工業株式会社
NVIDIA	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	中部電力株式会社	本多通信工業株式会社
OISHII FARM	イビデン株式会社	データブリックス・ジャパン株式会社	三井化学株式会社
Qualcomm	AGC株式会社	株式会社TBSホールディングス	三井情報株式会社
Renesas Electronics	エクシオグループ株式会社	デクセリアルズ株式会社	三菱ケミカルグループ株式会社
Ribbon Communications Operating Company	SCSK株式会社	株式会社電通グループ	三菱重工株式会社
SENKO Advanced Components	株式会社工ネコム	東京応化工業株式会社	三菱商事株式会社
ServiceNow	沖電気工業株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	株式会社三菱総合研究所
SUMITOMO BAKELITE	株式会社オブページ	株式会社東芝	株式会社ミライズ テクノロジーズ
Suncall	オリンパス株式会社	凸版印刷株式会社	株式会社ミライト
Super Micro Computer	九州電力送配電株式会社	日揮株式会社	株式会社村田製作所
TELEFÓNICA	ケル株式会社	日産化学株式会社	矢崎総業株式会社
Ufi Space	santec AOC株式会社	日東紡績株式会社	ユニアデックス株式会社
VIAVI Solutions	J X 金属株式会社	日本放送協会	株式会社レゾナック
Wind River Systems	株式会社JTOWER	日本ガイシ株式会社	
Wiwynn	清水建設株式会社	日本ヒューレット・パッカド 合同会社	
artience株式会社	信越化学工業株式会社	ネットアップ合同会社	



Academic or Research Members (18)

産業技術総合研究所(AIST)	工業技術研究院(ITRI)	光電科技工業協進会(PIDA)	名古屋大学
台湾雲端物聯網産業協會(CIAT)	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	大阪大学	広島大学
電力中央研究所(CRIEPI)	防災科学技術研究所(NIED)	慶應義塾大学	早稲田大学
PhotonDelta Foundation	国立情報学研究所(NII)	東京大学	
資訊工業策進會(III)	光電子融合基盤技術研究所(PETRA)	東北大学	

Your Value Partner

若者・女性に
「選ばれる岩手」宣言

若者・女性に「選ばれる岩手」宣言

地方創生から10年が経ち、岩手の子育て環境や雇用情勢、地域の魅力は大幅に向上しました。一方、東京一極集中はむしろ加速し、若者・女性の県外転出が高い水準で続いています。

人口の移動は個人の選択の結果であり、個人の判断は尊重すべきですが、若者・女性一人ひとりの人生選択の中で「選ばれる岩手」であることが重要です。

国も地方創生の再起動に踏み出しました。私たちは、いま、これまで築き上げた成果を土台に、若者・女性が暮らしやすい・働きやすい「選ばれる岩手」であるように行動する時です。

そこで重要なのが、家庭や地域、職場での性別による固定的な役割分担の解消です。

県では、令和3年に、「性別による固定的な役割分担意識をなくそういわて宣言」を行い、県内に賛同の輪が広がっています。さらに、私たちは、具体的に、家庭や地域、職場での性別による固定的な役割分担を変えるべきであり、変えることができるのではないのでしょうか。

家事・育児・介護の負担や地域における特定の役割などの性別による固定化を解消しましょう。性別によらない採用・登用、共働き・共育てを可能にするライフスタイルに応じた柔軟な働き方の導入などを着実に進めていきましょう。

女性に選ばれる環境は、若者にも選ばれる、全ての人にとっても良い環境になります。そうしたお互いを尊重し支え合える環境は、家庭や地域、職場でのウェルビーイング（幸福）が高まり、様々なイノベーションが生まれ出される環境でもあります。

岩手が若者・女性に選ばれるように、県民みんなで頑張りましょう。

令和7年1月17日

いわて未来づくり機構 ラウンドテーブルメンバー

岩手県商工会議所連合会 会長 一般社団法人岩手経済同友会 代表幹事 大船渡商工会議所 会頭

国立大学法人岩手大学 学長 公立大学法人岩手県立大学 学長 岩手県知事